

【校訓】 「正しい理念」「希望と意志」「行動と反省」

- 【教育目標】
- 1 自立した個人としての成長をめざし、自主自律の精神を実践する人を育てる。
 - 2 有為な社会人をめざし、正義を愛し人権を重んじ自他を深く愛する人を育てる。
 - 3 平和的な国際人をめざし、奉仕と連帯の精神を実践する人を育てる。

1. 目指す学校像

「高い志を抱き、真摯に取り組み、進路を切り開く」

本校は、創立以来「学び」の基本として、2つのシンボルを掲げてきた。
1つは、ギリシアのデルフォイにあったアポロン神殿の玄関の柱に刻まれていた「GNOTHI SEAUTON」(汝自身を知れ)という言葉であり、もう1つは、自主自律の精神を培う「ノーチャイム制」である。
自己の理想に向けて、自己を謙虚に見つめ、自己を磨き続ける生徒を育てることが、2つのシンボルに掲げられた願いである。

2. 中期的目標と方策

目標(1) 3年間を見通した各教科が作成した「南平高校学力スタンダード」の達成に向けて、学校全体で「南平到達度教育」指導プログラムの充実を図る。

- ① 生徒の学力状況に基づき各教科で作成した「南平高校学力スタンダード」の達成に向けて、各教科で「南平到達度教育」指導プログラムの更なる改善を進めていく。
- ② 言語能力の向上を図るため、読書活動や言語活動の推進など多様な取組を展開する。
- ③ 体育の授業を中心に、生徒の体力及び運動習慣を把握し、体力・運動能力を向上させる。
- ④ 学習課題に応じた個別面談指導及び組織的な補習講習等の学習支援体制の充実を図る。

目標(2) 望ましい職業観、勤労観の形成を図りながら適切な進路選択を促すと共に、現役進学率の向上と国公立大学や難関私立大学への合格実績の向上を図る。

- ① 3年間の進路指導計画に基づき、進路指導部主導による組織的・計画的な進路指導を行う。
- ② 学校全体で、自学自習の定着に取組み、学習時間の確保を図る。
- ③ 生徒が自己の適性を見極め、進路情報を活用し、納得のいく進路選択を行えるよう支援する。
- ④ 進路講演会、講習、最新の進路情報の提供、大学との連携強化、面談等による、進路実現支援体制の強化を図る。

目標(3) 心知体のバランスがとれ人間的魅力があり、自主自律の精神に基づいた自己を管理できる生徒を育成する。

- ① 学習、部活動、委員会、学校行事に全力で取り組ませ、人間性を磨き心身を鍛える。
- ② ノーチャイム制の理念を基礎に、日常行動の自己管理能力を高める指導を行う。
- ③ 学校保健計画に基づき、健康と体力の自己管理能力を高める指導を行う。
- ④ いじめや体罰のない生徒の人権が尊重される学校環境作りを更に推進する。

目標(4) 生徒・保護者・地域の人々に理解され信頼される学校を目指す。

- ① 地域及び関係機関と連携し、防災教育を更に推進し危機管理体制を充実させ、社会に貢献できる能力と精神を育成する。
- ② 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、各教科・特別活動で、オリンピック・パラリンピック教育を行う。
- ③ 重点支援校の成果と課題、生徒による授業評価、学校評価を更に活用し、学校改善を進める。
- ④ 学校全体の広報活動を活性化し、生徒・保護者・地域の方々の学校への信頼感を更に深める。

3. 今年度の取組目標と方策

(1) 学力向上「わかるからできるへ、授業の質の保証」		
今年度の取組目標	方策	時期
ア. 平成28年度南平高校学力スタンダードを策定し、組織的・計画的に生徒の学力到達度に応じた学習指導体制の充実を図る。	① 「南平高校学力スタンダード」の達成に向けて各教科で「南平到達度教育」指導プログラムを実施する。授業と定期考査の連携を図り、到達度に応じた組織的な教科指導を実施し、日々工夫・改善に取り組む。 ② 教科担当者は、授業冒頭の授業目標の明示、大学進学を意識した内容、生徒の教科学習への意欲を喚起させる授業を行う。 ③ 教科担当者は、小テストや週末課題の質と量を調整し、学習記録の定点観測により、定着度を向上させる。また、学習課題に応じた個別面談も行う。 ④ 統一体力テスト一覧の年度総括データを作成し、体力の到達度を分析・検証し、体力・運動能力を向上させる。 ⑤ 「人間と社会」「主権者教育」「オリンピック・パラリンピック教育」を、年間授業計画に位置付けて取り組む。	通年
イ. 到達目標を達成させるため、組織的な学習支援体制の充実を図る。	① 定期考査毎に到達度を把握し、科目担当者間で指導方法、教材、課題等の工夫改善を図る。 ② 各教科と学年で講習補習、課題等の連携指導を実施する。 ③ ノートの作り方や学習教材の選定指導等、時間の有効活用などの効率的な生活習慣を定着させる指導を実施する。	通年
ウ. 組織的・計画的な教科会の研究研修活動の充実を図る。	① 教科会で授業の内容・進度及び教材等の情報交換による計画的な研究研修活動を実施する。 ② 教科会・教科主任会・学年会で学力調査・課題テスト・定期考査結果等について、個々の生徒の学力の到達度を組織的に把握し、学習状況を情報共有する。 ③ 校内・進学指導重点校や指導教諭等の校外の教科授業参観を実施する。 ④ 国地歴公民数理英の5教科の授業力向上セミナー等の予備校研修を実施する。 ④ 施設設備の整備による自習環境を確保する。	月1回以上 毎月 通年
エ. 生徒の学習意欲を向上させるための課題解決型授業や言語的表現能力を伸長させる教育活動を推進する。 オ. 習熟度、少人数の授業形態の到達度や特性、生徒の理解度の効率化を図る。	① アクティブ・ラーニングの手法、ICT機器等の活用充実等、指導方法の工夫に努める。また、定期考査で、記述力、論述力を図る問題を入れる。 ② 言語活動推進委員会による、読書活動の推進を行い、各学年、司書教諭並びに生活指導部が連携した読書指導(読書月間7・8月、書評合戦参加)を実施する。 ③ 生徒の学力に見合う適正な編成により、各段階(基礎・応用・発展等)及び教科特性に応じたグループ編成を行い、定点観測による再編成も可能にする指導を行う。	通年

(2) 進路実現 「高い志に向けてチャレンジさせる指導」

今年度の取組目標	方策	時期
<p>ア、3年間を見通した体系的、総合的な進路指導計画を策定し、進路指導の充実を図る。</p> <p>イ、5年後10年後を見通したキャリア教育を充実させ、生徒の進路実現を図る。</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① キャリア教育を踏まえ、生徒の希望進路を実現する組織的・計画的な進路指導計画を作成し、各学年及び教科と連携を図り進路指導部が主導する取り組みを実施する。 ② 進路指導部が、上級学校、他校進路指導部、予備校等々と交流し、様々な最新の情報を進路通信等で情報発信を行い、生徒が自己の適性を見極め、納得のいく進路選択ができるよう支援する。 ③ 予備校等、多種多様な分野から講師を招き、年間3回以上の進路講演会を実施する。 ④ 中央大学オープンキャンパス南平版（中大ガイダンス）、首都大学東京オープンキャンパスを始め、各大学のオープンキャンパスを活用した指導を一層充実させる。 ⑤ NPO、PTA や同窓会等と連携して社会人講話を行うなど、生徒が自らの「在り方生き方」の将来を考える指導を行う。 	<p>通年</p>
<p>ウ、進路指導部が各教科・各学年と連携し、系統性・発展性のある進路指導の充実を図る。</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 進路指導部が、補習・講習を取りまとめ、各教科と学年で連携して講座内容と到達度に応じた受講指導を行う。夏季は5月中旬まで、冬季は11月下旬、春季3月上旬までに講座の内容と日程を生徒に提示する。 ② 保護者会や個人面談(二者、三者)年2回以上実施など保護者に周知し、進路指導部と連携して面談月間の設定により計画的に模試結果ソフトと会議室を有効に活用する。 ③ 保護者への進路情報の発信と保護者会での進路講話(進路指導部や外部機関の活用)等を実施する。 ④ 組織的な受験対策として、2学年勉強合宿を進路指導部が2学年及び教科と連携して、進路行事として実施する。 <p>都内先進校の学習指導、進学指導及び受験対策等の視察を実施する。</p>	<p>通年</p>
<p>エ、進路データの蓄積、外部機関との連携による情報収集に努め、各学年・分掌・教科と連携した進路指導力を向上させる組織体制を構築する。</p> <p>オ. 国公立、難関私立大学の進学率を向上させる取り組みを充実させる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 模擬試験を計画的に実施し、模擬試験データをデータベース化して蓄積する。また定期考査結果等を含め個人成績推移表(カルテ)を作成し、各担任の個別面談指導の充実を図る。 ② 教科会・教科主任会・学年会での情報共有による教科・学年の組織的な指導の工夫改善に取り組む。 ③ 各学年の模試分析会を設定し、学年、進路指導部、教科主任及び科目担当者が参加する。分析結果を各教科が学習指導方法等の工夫改善を図る。 ④ 進路指導部がセンター試験に向けた出願指導研究会を3学年と連携して職員会議で実施する。 	<p>通年</p>

(3) 心・知・体を磨く 「学校生活全般に渡って、濃やかな指導」

今年度の取組目標	方策	時期
ア、生活指導統一基準による生徒の自己管理能力の向上と社会の規範意識の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校全体でノーチャイム制を継続し、教職員自ら始業時刻を厳守して、始・終業時の挨拶を励行する。 ② 生徒個人ロッカーを活用した、所持品管理や整理整頓の徹底的指導を実施する。 ③ 定期考査ごとの考査受験上の注意を徹底指導する。 ④ セーフティ教室において、薬物乱用とインターネット・携帯等の情報モラルについて指導する。 	<p>通年</p> <p>定期考査毎 6月・3月</p>
イ、将来にわたって必要なマナー、人間関係構築力、やり抜く力の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ① 登下校時の通学マナー、挨拶の指導を、学期当初を中心に随時実施する。 ② 学期ごとに遅刻生徒数を集計し、対象者への指導を年3回実施する。 ③ 年間6回の頭髪指導を実施、学年指導4回、生活指導部の指導2回を実施する。 ④ 交通安全指導を実施、自転車事故等を防止する。 ⑤ 集会指導(全校、学年)を適宜開催し、生徒全体への指導効果を高めていく。 	<p>通年</p> <p>学期毎</p> <p>通年</p> <p>7月</p> <p>通年</p>
ウ、生徒が、常に自主的自律的に学習と部活動・学校行事の両立を目指す指導を行い、帰属意識と達成感を醸成する。	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校行事においては、生徒の自主的な企画運営を促し、適切な指導助言と支援を行い、各行事を通じて「仲間とともに創り上げるもの」等をコンセプトにした質の高い各学校行事への集中した取組み指導を実施する。 	<p>通年</p>
エ、部活動強化と学校行事の充実を図ると共に、学習との切替を重視し、生徒の自主自律の精神に基づく自己管理能力の育成指導を徹底する。	<ul style="list-style-type: none"> ① 各部の活動実績や成果、学校行事について学校内外に広く紹介し、生徒の励みとする。 ② 体罰のない指導、質の高い部活動を推進し、学習と行事・部活動のメリハリのある指導を重視し下校時刻を徹底する。 ③ 部活動顧問は、担任・学年・進路指導部と連携し、生徒の学習状況を把握し、学習と部活動の両立ができるよう支援と助言を行う。部活動単位による学習支援としての指導(部勉強会・合宿期間の勉強会・定期考査前の勉強会・休業期間とオフ日の勉強会)等を、各部の実態に合わせて、自学自習を基本として実施する。 	<p>通年</p>
オ、人権教育と道徳教育の推進、教育相談の活用により、いじめ防止、生徒の心のケア、個別の支援教育が必要な生徒への個別の支援教育を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ① 人権課題や道徳課題のHR、集会、講演会等を通じて人権感覚と道徳観を養う。 ② いじめ調査を年3回実施する。いじめが発生した場合には、迅速な対応で早期解決を図る。 ③ 学校サポートチームと連携する。 ④ 月2回教育相談委員会を開催し、組織的に、いじめ未然防止、生徒の心のケアを行う。個別の支援教育が必要な生徒には、特別支援コーディネータが中心となり、スクールカウンセラー・養護教諭・生活指導部・各学年が家庭と連携し、個別の支援教育を推進する。 ⑤ 教育相談、特別支援教育の校内研修会を実施して、教職員の資質の向上と共通理解を図る。 	<p>通年</p> <p>学期毎</p> <p>通年</p>

カ、環境・美化指導を推進し、公共性に対する精神と感覚を充実させ、施設設備を大切にすることを養う。	① 美化委員会の主体的な活動指導を徹底し、清掃分担の清掃の徹底、ごみの減量とリサイクルに取り組む。 ② 学校全体からアカデミックな雰囲気が感じられるように、教室や廊下に日々の取り組み成果や生徒の活動が掲示する。 ③ 掲示物、机・椅子等が整然としているHR教室の環境を維持する。	通年
キ、安全・健康の指導体制を充実する。	① 学校安全計画、保健計画を作成公開して保護者の理解にも努め、健康教育と食育への理解協力を得る。 ② 感染症、アレルギー対策等の情報共有とマニュアルを徹底する。	通年

(4) 信頼され、開かれた学校 「生徒・保護者・地域の意見の反映」		
今年度の取組目標	方策	時期
ア、地域と連携し、「人間と社会」の組織的な実施と充実に結び付ける。	① 日野市消防署、日野市役所、ボランティアセンター、立川防災館、地域等と連携し、教科「人間と社会」の目標である「よりよい生き方を主体的に選択し行動する力」を育成する。	通年
イ、防災教育を推進し、防災に対する意識の高揚を図り、地域や関係機関と連携して社会貢献に対する意識と実践力を身に付けさせる。	① 防災教育年間指導計画に基づき、全教職員で防災教育を更に推進する。非常時に備えた生徒の震災時帰宅計画の作成、緊急時の連絡体制を整備する。 ② 年4回の避難訓練、年1回の宿泊防災訓練、年1回の防災講話、年1回の防災体験、年1回の防災活動(避難所運営ゲーム)等を関係機関や地域と連携して実施する。	通年
ウ、オリンピック・パラリンピック教育を推進する。	① 「オリンピック・パラリンピック教育」を、年間授業計画に位置付けて取り組むとともに、「世界ともだちプロジェクト」の交流対象国と交流を深める。	通年
エ、重点支援校成果検証資料、生徒による授業評価、学校評価の結果を、教育活動に効果的に生かす。	① 重点支援校成果検証資料、生徒による授業評価、外部機関による学校評価を実施し、客観的な評価により、学校を改善していく。	通年
オ、学校説明会、HP、学校通信等による広報活動を推進する。	① 全教職員による学校説明会への協力、日々のHPの更新、月1回の学校通信の地域配布による広報活動を推進する。	通年

4. 重点目標と数値目標

重点目標	具体的な数値目標 ※ () は、昨年度の数値
(1) 学力向上	① 「生徒による授業評価」肯定的評価80%超え(各教科100%→62.5%) ② 「学校評価アンケート」南平高校学力スタンダードへの「生徒の到達目標点(定期考査)通過率」60%(45%→43%) ③ 「外部模擬試験(年度末)」同一学年のデータ前年比較偏差値超え ④ 生徒の学習時間 平均1年75分(70分→65分)以上、2年90分(90分→73分)以上 ⑤ 体力向上 27年度と同レベルを維持する(全国平均レベル以上) ⑥ 読書未読率 0%(7.5%→0%)

<p>(2) 進路実現</p>	<p>① 「センター試験得点」全科目で全国平均超え 「センター試験受験科目得点率75%以上」の得点者の増加</p> <p>② 「国公立大・難関私立大学現役合格者数」の増加 延合格者数(例:1つの大学で1人の生徒が複数学科に合格したら合格した学科数全てを数える)250名以上(163名→227名) 実合格者数(例:1つの大学で1人の生徒が複数学科に合格しても「1」として数える)180名(129名→163名)</p> <p>③ 「長期休業中の補習・講習」70講座(3年生は50講座)以上開講。 「延べ参加生徒」7700名以上</p> <p>④ 「学校評価アンケート」進路指導満足度85%以上(81%)</p>
<p>(3) 心・知・体を磨く</p>	<p>① 生徒遅刻数 1年100回(163回→167回)未満 2年150回(377回→369回)未満、 3年200回(204回未満→236回)未満</p> <p>② 頭髪指導対象生徒0名(6名→0名)</p> <p>③ 自転車交通事故0件(5件→3件)</p> <p>④ 「学校評価アンケート」行事満足度90%(88%→84%)</p> <p>⑤ 部活動加入率93%(86%→90%)</p> <p>⑥ インターハイ・関東大会出場2部(1部→0部)</p> <p>⑦ ベスト16以上10部(9部→8部)※個人種目含む</p> <p>⑧ 文化祭入場者延べ数4,000人以上(3767人→3682人)</p> <p>⑨ 「学校評価アンケート」教育相談体制の充実度85%(75%→83%)</p> <p>⑩ 「学校評価アンケート」環境整備による施設設備等の満足度85%以上(80%→82%)</p>
<p>(4) 信頼され、 開かれた学校</p>	<p>① 「学校評価アンケート」防災教育満足度85%以上(73%→80%)</p> <p>② HPアップ回数 200回以上</p> <p>③ 学校説明会参加者合計2500名以上(2422名→2422名) ※中学校・塾等含</p> <p>④ 学校見学1600名(1382名→1585名)</p> <p>⑤ 入選倍率 推薦2.3倍以上(2.67倍→2.12倍) 一般1.6倍以上(1.52倍→1.59倍)</p>